

2016年度 ASC クラブ杯テコンドー選手権大会 試合規則

① マッソギ ITF-JAPAN ライトコンタクト・ルール

- ・団体戦マッソギは6級以上の選手のみ参加可能とする。
- ・小・中学生の部マッソギ個人戦は8級以上の選手のみ参加可能とする。
- ・小・中学生の部及び成年女子の部は面及び胴の防具着用
- ・成年男子の部は面を着用
- ・試合時間は、成年部は2分、小・中学生の部は1分30秒とする。
- ・個人戦は1ラウンドとし、決勝戦のみ2ラウンド行う。
- ・団体戦は勝利数の多いチームを勝ちとする。消化試合は一回戦のみ行う。チームによっては二回戦が初戦のケースもあるが二回戦では消化試合は行わない。(参加チーム数により試合方式の変更可能性あり)
- ・体重超過による他クラスへの変更エントリーは認めない

② トウル ITF-JAPAN ルール

- ・団体戦は3人一組とし、少年団体戦は準決勝戦（三位決定戦）までは自由のみ。決勝戦は自由と指定を行う。成年団体戦は全試合自由と指定を行う。
- ・個人戦は決勝のみ自由と指定を行う。一回戦～準決勝戦・三位決定戦までは指定のみ。

③ 団体パワー

- ・各チーム3名が下記3種目について1種目ずつ試割を行い、その合計枚数で優勝チームを決定する。
男子 アプチュモク ・ ヨプチャチルギ ・ パンデトルリョチャギ
女子 アッパルク ・ ヨプチャチルギ ・ パンデトルリョチャギ
- ・2チーム以上が同数トップになった場合は決勝戦を行う（優勝者チームのみ決定）。
代表者1名が更に試割を行う。決勝戦の種目は自由。更に同数となった場合は別の代表者を選出する。
- ・それぞれチームのメンバーが互いに板の持ち手となる。

④ 団体スペシャルテクニック

- ・各チーム3名が異なる高さにある板（ウレタン板・高さに応じたポイントを設定）を1つ選んで蹴り、3名のポイントの合計で優勝チームを決定する。
- ・蹴りはティミョノピチャギとする。
- ・2チーム以上が同数トップになった場合は決勝戦を行う（優勝者チームのみ決定）。
代表者1名が更に試技を行う。決勝戦の種目はティミョパンデトルリョチャギとする。
更に同数となった場合は別の代表者を選出する。
- ・板の持ち手は審判員が行うものとする。

⑤ その他

- ・所属責任者に参加の許可をもらうこと
- ・団体戦は8級以上の選手のみ参加可能とする。
- ・団体戦は1チームあたり、補欠1名を含めて4名まで登録可能とする。
- ・1チームあたり、黒帯は1名までとする。
- ・1人が複数チームに所属することはできない。
- ・個人戦は各クラス参加者が、少数の場合には他のクラスの統合ないし変更される場合がある。